

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	神戸市立あけほの学園			
○保護者評価実施期間	2024年10月16日		～	2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2024年10月16日		～	2024年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月10日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達に課題があり、不登校等の中学校になじめなかった子どもたちも積極的に受け入れ、多様なニーズに対応している	学園で福祉サービスを受けながら、定時制高校や通信制高校に通学することで高卒資格取得したり、アルバイト就労を可能としている	学園に通うことによるメリットを周知する
2	進路に関して情報を集め、適切に提示している	進路担当を中心に、積極的に進路情報を集め、事業所とコンタクトを取り、見学・実習の機会を創出している	新たな進路を開拓し、見学・実習に努める
3	紙工、木工、解体等複数の作業を経験できる	概ね2か月ごとに作業班を変わり、違う集団、違う指導者とともに作業を行っている	引き続き、作業を通じて、将来の社会参加や自立につながる経験を増やす

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	中学卒業後の進路としての認知度が低い	毎年、年度初めに教育委員会を通じて、全教員に対して学園要覧の配布や見学会の案内をしているが、なかなか浸透しておらず、普通級の先生にはほとんど知られていない	引き続き、年度初めに教育委員会を通じて、全教員に対して学園要覧の配布や見学会の案内をしていくとともに、特別支援学級の先生への情報提供等により、認知度を上げていく
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	神戸市立あけぼの学園					公表日	2025年 2月 14日		
		利用児童数				25	回収数		17
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	1	0	4	充分すぎる		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12	3	0	2	充分すぎる		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	0	0	3	充分すぎる		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	11	3	0	3	古いがとても清潔に保たれている		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	1	1	2	相談事を無視される	概ね専門性のある支援を受けているとの意見であった。今後もこどもを理解し、専門性のある支援に取り組む	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	1	1	0	決めつけが多い	概ね適切に個別支援計画が作成されているとの意見であった。今後もしっかりとニーズを把握したうえで、個別支援計画を作成していく	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	3	1	2	家族支援はしてもらっていない	具体的な支援内容が設定されているとの意見が多かった。今後さらにわかりやすい説明に努める	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1	1	0	全く行われていない	概ね計画に沿った支援をしているとの意見が多かった。今後も具体的に理解しやすい支援を心掛ける	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	4	1	2		工夫されているとの意見が多かった。今後も柔軟なプログラムを心掛ける	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	3	2	9		高校生年代の施設であり、実習等を通して、一般社会との交流を図っている	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	1	1	1	ちゃんと説明がなく、契約書に書いてあることと違った	概ね丁寧な説明があったとの意見であった。今後もより分かりやすく丁寧な説明を心掛ける	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	0	0	1			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	2	2	2		日曜参観や懇談を通して情報提供を行ったが、「わからない」等の意見もあったため、今後もより分かりやすく周知する	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14	1	2	0	全くできておらず、伝えても無視される状況は伝わっているが、共通理解ができているかはわからない	概ね共通理解ができているとの意見であった。今後もより丁寧に状況を伝えることを心掛ける	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	0	1	0	全くできておらず、気に入らないと無視される	概ね支援が行われているとの意見であった。今後もより適切な支援を心掛ける	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	1	1	1	気に食わなければ、相手にしてもらえない 注意はよく受けているが、共感的かは疑問	概ね共感的に支援されているとの意見であった。今後も相手に寄り添った対応を心掛ける	
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	3	2	2	10	先生の気持ちや資質によって違う	保護者の負担感もあり、保護者会は解散しているが、日曜参観等の機会を通して、家族への支援を心掛ける		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	2	1	1	対応されておらず、無視される 周知説明はあったが、適切か否かはわからない	概ね適切に対応しているとの意見であった。今後も迅速かつ適切に対応するよう心掛ける
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	2	1	0	全くなし	概ね配慮されているとの意見であった。今後も視覚支援など分かりやすい方法での情報伝達を心掛ける
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	1	0	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	0	1	4		概ね周知されているとの意見であった。今後も契約時や懇談時等を通じて周知したい
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	1	0	2		今後も学園ニュース等を通じて周知していく
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13	1	1	2		概ね適切に支援が行われているとの意見であった。さらなる安全の確保と周知を心掛ける
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	0	1	2	怪我しても連絡がない 事故がなかったため、わからない	概ね適切に説明がされているとの意見であった。今後も適切な説明を心掛ける
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	1	1	1	子どもの気持ちに寄り添わず、ほったらかし 安心して、信頼している	概ね安心感をもって通所しているとの意見であった。今後も子どもの立場に立って寄り添う
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	6	1	0	安心感がないのにたのしみにできない 毎日楽しんでいる	概ね楽しみにしているとの意見であった。今後も子どもたちの意見も取り入れて、プログラムを充実させていく
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	1	1	0	子どもに寄り添わず、相談事は無視 大満足。とても信頼できる先生、学園でよかった まだ日が浅いので、わからない	概ね満足しているとの意見であった。今後も満足していただけるよう、支援していく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		神戸市立あけぼの学園					公表日	2025年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		ホワイトボード等を利用し、視覚的にわかりやすいように工夫している			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日、作業終了時に清掃をしている			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		行事後に職員会議を通じて、意見を集約し、次回につなげるようにしている			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員会議を通じて、意見を集約し、業務改善につなげている			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員会議を通じて、意見を集約し、業務改善につなげている			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>			第三者評価は取り入れていない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員会議等で検討している			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		職員会議等で検討している			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員朝礼時に必要事項を確認し、チームとして支援している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		職員終礼時に必要事項を確認し、チームとして支援している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録をとっており、月締めで園長まで報告している	記録の書式が統一できておらず、各自で作成している
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		在籍している高校や進路先とは情報共有ができています	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		進路先とは情報共有ができています	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		進路先にもなりうる就労系の事業所への見学等を積極的に行っている	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○		施設の目的を鑑みて、自立支援協議会の全体会や就労系事業所の部会に参加している	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		高校での他の児童との交流や各種スポーツ大会への参加することによる交流がある	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳を通して、学園での状況や進路の情報などをやり取りしている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日曜参観の機会に進路ガイダンスを開催する等、家族に対する情報提供を行っている		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		年に3回の定例の懇談を設けている。また相談があれば適宜相談に応じている	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者の負担感もあり、保護者会は解散しているが、日曜参観や学園祭の機会に保護者の交流を図っている
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		行事予定表と共に学園ニュースを毎月発行し、学園の行事や状況等をお知らせしている
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		適切に取り扱っている
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		ホワイトボード等を利用し、視覚的にわかりやすいように工夫したり、ルビを振って読みやすくしたりしている
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		バザーや地域のふれあい喫茶に参加し、またふれまちとの交流会も行っている
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		保護者等への周知が課題
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		入所時や行事の際に適宜、服薬調査や病状の確認をしている
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		入所時に食物アレルギーの有無を確認している
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		学園だよりを活用し、取り組み内容の周知を図っている
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		最低、年に1回は研修を実施している	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			